受講生大募集！

ピナ・バウシュのメソッドを発展させた
独自のメソッドによるクラス。

ニナ・ディプラ ワークショップ

2013年10月22日（火）、23日（水）、24日（木）
21:00-23:00

●受講料：1回　2,940円　3回通し　7,875円（税込）
●お申込み：セッションハウス企画室

静寂の中、床に寝て始まり、身体の中心や重心について探り、自分の身体の声と体の要求に耳をすまします。次に立ったポジションで空間を移動し、自分に真実であることと同時に、他の人を妨げることなく、空間に参加します。そして次第に動きを発展させ、徐々に速度を上げながら、最後は各自の身体や精神の境界を超える挑戦をします。彼女の作業は、特に重心やエネルギー、呼吸、動きの質に集中します。空間を使うこと、なめらかさやハーモニーの探究がワークショップの軸となります。

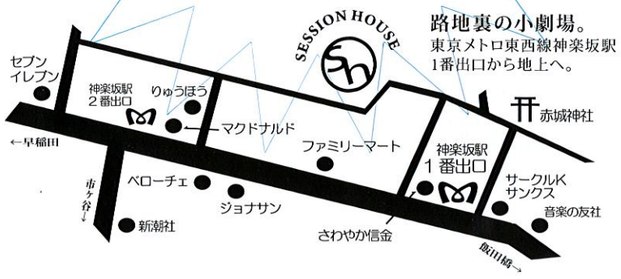
照明：加藤泉、久津見太地
音響：相川貴
舞台監督：十亀脩之介、外園彩織
記録映像：瀧島弘義
記録写真：伊藤孝
監修：伊藤直子
企画制作：伊藤孝
宣伝美術：亀井佑子

EU・ジャパンフェスト日本委員会

主催・お問い合わせ

セッションハウス企画室
03-3266-0461
mail@session-house.net
〒162-0805 東京都新宿区矢来町158

www.session-house.net



路地裏の小劇場。
東京メトロ東西線神楽坂駅
1番出口から地上へ。

SESSION HOUSE Program selection

ダンスブリッジ

イメージの架け橋

2013

多様性と独自性を特徴とする
コンテンポラリーダンスの表現様式は
楽しみ方も各人各様！

日常の動きをダンスにするからだ、
物語を語るからだ、
テクニックに裏づけされたからだ
と種々様々なダンスが並びました。

「3作品×2公演」
計6作品のダンスの饗宴！

ダンスの醍醐味を堪能する
贅沢な4日間をお届けします。

日時　2013年10月
PART1： 19日（土）19:00
20日（日）14:00／18:00
PART2： 26日（土）19:00
27日（日）14:00／18:00

料金
- 前売　3,000円
- 当日　3,500円
- 学生　2,500円
- 2公演通し券　5,000円

会場　セッションハウス

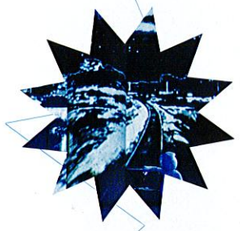
振付 出演

近藤良平
出演：近藤良平／中村蓉

ニナ・ディプラ
出演：ニナ・ディプラ

松本大樹
出演：松本大樹／アンディ・ウオン

SESSION HOUSE



今津雅晴
出演：今津雅晴／笠井瑞丈／山田茂樹

中村駿・歌川翔太
出演：歌川翔太／中村駿／田村悟／山口将太郎／三浦健太郎／柴田若奈／志岐裕美／加藤恵理佳／吉原沙織／永田真也

伊藤直子
出演：マドモアゼル・シネマ
（相原美紀／竹之下たまみ／佐々木さやか／佐藤郁／外園彩織）

ダンスブリッジ イメージの架け橋 2013

「ダンスブリッジ」は、コンテンポラリーダンスを通して“創造する時間”と“想像する時間“の架け橋を作ります。
ダンス表現の多様性を伝え、各ダンス作品の持つ独自性を楽しむために、創作のための要素（コンセプト、物語性、テクニック等）の
異なる振付作品を並べ1企画 3作品で上演します。セッションハウス・レジデンス・アーティスト達を始め、
独自性で魅了した公募作品からも選出し、ダンサー達の “からだ“が魅せる多彩な表現を伝えます。

PART 1

2013年10月
19日（土）19:00 ｜ 20日（日）14:00／18:00

PART 2

2013年10月
26日（土）19:00 ｜ 27日（日）14:00／18:00

近藤良平『恋のバカンス』

出演：近藤良平、中村蓉

人が旅をするのは、何らかの理由がある。冒険もあれば傷心もある。
日本語で「旅」というと趣があり、「旅行」というと形式的に聞こえる。英語表記では「trip」「journey」「vacation」とこれまた味が違う。ぼくはこの「バカンス」という響きにロマンスを感じる。それにデュオという面白さ。作品の筋立てを追うのではなく、踊ることそのものを感じるデュオ作品に向かう。

●近藤良平プロフィール

ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。横浜国立大学在学中にダンスを始める。1996年セッションハウスで「コンドルズ」を旗揚げし、国内外で公演活動を展開。NHK教育テレビ「からだであそぼ」をはじめ、ミュージカル、演劇、コンサート、CMなどジャンルを問わず活躍中。2003年に舞踊批評家協会新人賞、'05年に朝日舞台芸術賞・寺山修司賞を受賞。横浜国立大学、多摩美術大学、立教大学、桜美林大学などで非常勤講師。セッションハウスでもダンスクラス講師、「リンゴ企画」芸術監督を務めている。共演の中村蓉は、2012年にNEXTREAM21審査員特別賞、第1回セッションベスト賞、'13年に横浜ダンスコレクションEX審査員賞・シビウ国際演劇祭賞を受賞。今回の作品は、ダンストリエンナーレトーキョー2012で好評を得た作品で、故・野和田恵里花との『小さな恋のメロディ』、黒田育世との『私の恋人』に続くデュエット作品として注目されている。

Photo: Bozzo

今津雅晴『疾走』

出演：今津雅晴、笠井瑞丈、山田茂樹

子どものときの疾走する夢を見た、自由な空間をひたすら走る。
それは狂気にも似た官能的な肌で、一枚剥いだようにヒリヒリするくらい感傷的だった、何も混ざりっけのない汗をかいた。心が体を追い越し、ついてこれない体に儚さをおぼえる、影を追い越し走りさる。確かジョルジョ・デ・キリコの絵の中にそんな絵をみた、「通りの神秘と憂鬱」—影を捕まえにいこう。

●今津雅晴プロフィール

千葉県銚子市生まれ。モダンダンス、パントマイム、コンテンポラリーダンスを習得。本田重春、江ノ上陽一、木佐貫邦子に師事。主にneo、コンドルズ、M-laboratoryなどに参加。1999年より自主作品の制作に取りかかる。2005年、文化庁派遣在外研修員としてモントリオールに滞在。元ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスのダンサー、ルイーズ・レカヴァリエとの作品を制作、世界各地で上演し好評を博す。'08年、Company Marie Chouinardに参加。Dana Gingras（バンクーバー）、平敷秀人（在チューリッヒ）らと共同制作、国境を越えて、身体の可能性に挑戦し続けている。'12年より活動拠点を日本へ移す。セッションハウスでもワークショップ講師。

ニナ・ディプラ『ローザ』

出演：ニナ・ディプラ

パリを拠点に活動するギリシャ生まれのニナ・ディプラが、魂の解放を詠ったクリストフォロ・クリストフィの詩「ローザ」からインスピレーションを受け、世界各地を舞台にワーク・イン・プログレスで創り続けている作品を公開する。師事したピナ・バウシュへのオマージュの気持ちをこめて活動してきた彼女は、東京の地で、仮面の奥に逃げ込もうとする自分の素顔に出会うことが出来るのだろうか？

●ニナ・ディプラ／Nina Dipla プロフィール

キリシャ・テッサロニキ生まれ。1980~85年ギリシャ代表新体操メンバー。母国でバレエを始め、仏カンヌの国立ダンス学校、独エッセンにあるピナ・バウシュの学校、フォルクヴァンク芸術大学で学ぶ。ピナ・バウシュの『春の祭典』にもダンサーとして参加。99年以降、様々な振付家や音楽家と共同して作品を上演。またピナ・バウシュのヴッパタール舞踊団でオペラ再演のアシスタントを務める。現在パリを拠点に、若手ダンサーの指導や振付を担当するとともに、仏国内外でカロリン・カールソンなど多数の振付家との共同創作やソロ作品を創作、ダンサーとしての活動も精力的に行っている。

歌川翔太＆中村駿『枯葉の樹の下で』（仮題）

出演：歌川翔太、中村駿、田村悟、山口将太郎、三浦健太郎、柴田若奈、志岐裕美、加藤恵理佳、吉原沙織、永田真也

始まりがあれば終わりがくる。終わりがあれば始まりがくる。粋な奴らの息のうた。

●中村駿、歌川翔太プロフィール

大東文化大学モダンダンス部4年生。同大ダンス部監督の馬渡照代教授に師事し、2人で創作活動に取り組む。2011年、All Japan Dance Festival in神戸で、'12年、Artistic Movement in富山でいずれも特別賞を受賞。同時に座・高円寺アワード、セッションハウスのUDC 12thなどにも出演。'13年、「神楽坂ダンス学校みんなでショーイング」における近藤良平のオーディションでデュオ作品『α』が選出される。2人にしか出来ない動きの質にこだわり、視覚的に楽しめて、内容も理解しやすい作品創りを目指しているが、今回は同大学生10名による群舞作品に挑戦する。

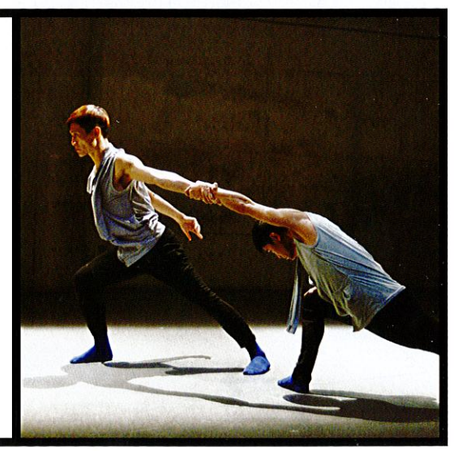
松本大樹＆アンディ・ウォン『樹林の舞2013/vol.9』

出演：松本大樹、アンディ・ウォン

意識と記憶が起こすエモーション（情感）と、身体を操作し運動することで起こるエモーション。2つのエモーションの現れ方のうち、身体からアプローチして立ち上がるエモーションを編みつなげて作品を構成する。身体の生理が導き出す感情のストーリーがそこに現れる。

●松本大樹プロフィール

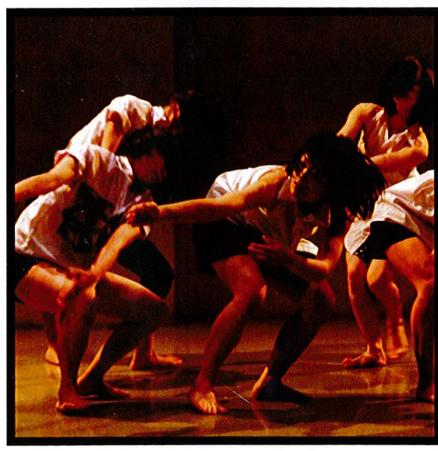
多摩美術大学卒業。英国ラバンセンターにてディプロマ取得。1999年香港に渡る。地元ダンサー達に支えられコンテンポラリーダンスのクラスを教え始める。2002年、第38回香港学校舞踊節優等賞受賞。'05年より香港のアンディ・ウォン（王延琳）と10年間毎年新作を創作するプロジェクト「Dance Forest 樹林の舞」を始動。セッションハウスのレジデンス・アーティスト及びダンス・クラス講師。'10年文化庁の研修制度のサポートを受けてニューヨークにてリモン・テクニックを学ぶ。東洋大学、多摩美術大学、鳥取大学非常勤講師。共演のアンディ・ウォンは、香港を拠点に国内外で精力的に活動を続けている振付家・ダンサーで、1999年、2004年に香港ダンス・アウォード受賞、'07年に国家民政事務局より文化発展功労賞を受賞。今回は2人の10年プロジェクトの9年目の成果を問う作品。



伊藤直子『赤い花 白い花』

出演：マドモアゼル・シネマ
（相原美紀、竹之下たまみ、佐々木さやか、佐藤郁、外園彩織）

赤い花は“生”の、白い花は“死”のイメージ。少女期の記憶と、圧倒的な忘却の時間が支えている「私たちの現在」を視覚化する。このダンスのキーワードは“花の記憶”。子どもの頃の隠れ遊びで、土に埋めたガラスの下の小さな鳥と白い花・・・。夏のひざしの中で、強烈に燃えていた赤い花・・・。ダンスは毎年日本列島に訪れる桜の季節を待つ日本人の心情を軸に展開し、亡くしたもの、見失ったものなど、一人ひとりの記憶と出来事をからめてなくした風景を創っていく。

●伊藤直子プロフィール

マドモアゼル・シネマ主宰。1993年結成以来、一人ひとりの記憶とカラダを創作の基としたダンス作品群を毎年数回発表。拠点劇場セッションハウスを始め、国内外の巡回公演、フェスティバル等で有機的な日本女性の動きを最前線に置いたダンスを提示、各地で好評を得る。また、セッションハウスにおけるダンス部門ディレクターとして活動。ダンサー、スタッフ、観客の視線が交錯する多様なダンスプログラムを企画、立案、ダンスの活性化に努めている。2005年全国税理士共栄文化財団地域文化賞受賞。'08年レパートリー作品『不思議な場所』の演出・振付に対し文化庁芸術祭新人賞受賞。'11年ポーランドの国際フェスティバル「シュツコバニエ2011」で『不思議な場所』で観客賞受賞。'13年7月、今回上演の『赤い花 白い花』ロングバージョンでアヴィニョン演劇祭に参加。